

京都大学 高等教育研究開発推進センター

第76回 公開研究会

大学英語教育の 『システム』が抱える問題と解消の仕方

—教育ガラパゴスの不思議な進化—

水光 雅則（京都大学高等教育研究開発推進センター・教授）

【日時】： 2007年6月23日(土) 午後3時～5時

【場所】： 京大会館 102会議室

参加費無料（事前申し込みは不要です。どなたでも当日参加できます。）

大学英語教育について、外国語教育としての授業の成立条件から、カリキュラムの開発と実施、英語担当者の資格、英語のプロの人材養成、責任の所在と意思決定などに至るまでの諸問題を「教育システム」の問題として捉え、京大でこの12年間どのように問題解消をしてきたかを見る。具体的には、次の15の問題を取り上げ、関係付ける。問題を共有する大学同士で議論を深めたい。

- (1) 専任が少ない中、非常勤を減らさずにクラスサイズを小さくできるのか。なぜクラスサイズという問題が生じるのか。
- (2) どんなCALLをするのか。設備、技術、予算だけ食って成果のないCALLでよいのか。
- (3) 大学の英語カリキュラムは何を目指すのか。駅前と同じはだめなのか。
- (4) 各学部で専門に直結する専門英語(特定学術目的の英語)を開講することはできないか。
- (5) 英語担当の非常勤講師は英語さえできれば誰でもいいのか。
- (6) シェイクスピアやチョムスキーを研究しているだけで英語教育ができるのか。
- (7) 英語を担当する専任教員から成る英語部会の専門別の構成はこれまでどおりでよいのか。
- (8) 英語担当者の教員採用人事の条件は昔のままでよいのか。大学は、したい教育にふさわしい人材の条件を考えて採用人事をしているのか。
- (9) 英語のシラバスでは何を書けばよいのか。
- (10) カリキュラムの開発と指揮の責任者は誰なのか。
- (11) 意思決定の仕組みはどうなっているのか。
- (12) 英語教育学と指定した公募で、優れた人材を採ることができるのか。
- (13) 大学は、教育に必要な人材を養成しているのか。
- (14) 英語教育学者が居心地よく思える場所があるか。
- (15) 大学には、その教育に必要な人員数の教員を適切な部署に配置されているかを調べ、調整する仕組みがあるのか。

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>

【京大会館へのアクセス】

京都駅より市バスD2のりば(206)「京大正門前」下車

三条京阪より京都バス17番のりば出町柳経由系統「荒神橋」下車

京阪電車「丸太町駅」下車徒歩7分

<http://www.kyodaikaikan.jp/access.html>を参照してください

【問い合わせ先】

センター事務・藤田 (yfujiita@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp) tel: 075-753-3087 fax: 075-753-3045